

平成26年度第1回登別市立図書館協議会会議録

日時 平成26年11月12日(水) 16:00~17:00

会場 登別市立図書館3階会議室

【委員】 神谷博達会長 合田美津子副会長 須藤和恵委員 柴山太一委員
(欠席) 松原條一委員

【図書館】 綿貫亨館長 太田裕之主査 高橋隆宏主任 中村志保主任

【教育部】 大野薫部長 中山重夫参与 佐藤史彦次長

議題

1. 協議事項

- 会長及び副会長の選出について
- 平成26年度運営方針・重点目標・施策について

2. 情報提供

- 「アーニス分館」開館後の利用状況について

3. その他

配布資料

- ・平成26年度登別市立図書館 運営方針・重点目標と施策
- ・提供資料集
 - 1.平成26年度図書館事業
 - 2.平成26年度事業スケジュール(予定)
 - 3.平成26年度図書館の学校対象事業スケジュール
 - 4.アーニス分館 開館後の月別利用統計(前年同月比)
 - 5.アーニス分館 開館前後の分類別蔵書統計の変動
 - 6.アーニス分館 所蔵雑誌一覧
 - 7.アーニス分館 所蔵定期刊行物所一覧
- ・「平成25年度教育委員会点検・評価報告書」(登別市教育委員会)

綿貫館長 それでは定刻になりましたので、平成26年度第1回登別市立図書館協議会を開催させていただきます。須藤委員がまだお見えになっておりませんが、欠席の連絡を受けておりませんので後でお見えになると思います。

本日はご多忙のところ皆さんご出席いただきましてありがとうございます。新年度ということで委員の方も変わられておりますし事務局も一部変わっておりますので、私の方からご紹介させていただきます。

(委員並びに職員の紹介)

それでは、お手元の議案に沿って行いたいと思います。

太田主査 これより協議会に入らせていただきます。

協議事項の1番目、会長及び副会長の選出についてであります。

この会の会長、副会長の選出につきましては、登別市立図書館条例第10条第1項の規定により委員の互選により定めることとされております。この件についてどのような方法で進めてよろしいでしょうか。ご意見を伺いたいと思います。

(神谷委員を推薦する声あり)

太田主査 それではご推薦をいただきましたので、会長には鷺別小学校校長の神谷博達委員。副会長も定めることになっておりますが、これは当方で案を用意してございます。「のぼりべつの図書館を考える会」会長の合田美津子委員。このお二方をお願いしたいと思いますがご異議ございませんでしょうか。

委員一同 (異議なしの声あり)

太田主査 異議なしの声がありましたので、会長には神谷委員、副会長には合田委員と決まりました。それでは、これ以降の議事は神谷会長にお願いしたいと思います。

神谷会長 ご挨拶をさせていただきます。私、4月に鷺別小校長として着任いたしました。私は生まれも育ちも網走管内、今はオホーツクですが、教員としてスタートしたのは胆振の地です。つい先日まで、苫小牧で小学校の教頭をしておりました。会長ということで推薦をいただきましたが、これを機会に本に親しむ生活に再び入ることができるよう個人としても努力したいと思います。

私、教頭時代に道立教育研究所のたしか研修会で、「中学生はこれを読め！」のくすみ書房の講演をお聞きしたことがあります。そのときに「教頭先生はこれを読め！」と本を何冊か紹介してもらったことがあります。推薦いただいたとなると急に本を読んできたくなりまして、推薦いただいた本をすべて読んだ記憶があります。どうぞ私に「校長先生はこれを読め！」という本を紹介していただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、協議事項の2つ目。26年度の運営方針・重点目標・施策について事務局お願いします。

綿貫館長 はい、24年12月に文科省の「図書館の設置及び運営上の望ましい基準」が改正され、図書館は運営方針を策定し事業年度ごとに事業計画を策定し公表するよう努めるものとされ、昨年度から運営方針・重点目標・施策・事業計画を策定し公表しております。既に年度の半ばを過ぎてしまい今更で大変申し訳ないのですが、今年度の運営方針・重点目標・施策をお諮りした

と思います。

まず『1.運営方針』。

端的に申しまして平成25年度とほとんど同じであります。これはやるべきことというのがはっきりしているというのもありまして、若干文言を変えたところはあるのですがほとんど同じです。

掻い摘んで申しますと、

- ・「地域を支える情報拠点」としての図書館の役割を認識し、「地域の社会関係資本、教育的資源」としての機能を積極的に果たす。
 - ・図書館の目的である「教養・調査研究・レクリエーション」の3つについて、偏ることなく全般的、網羅的な充実を図る。
 - ・図書館が長期にわたって利用されるには「空間・人・資料」の3要素の充実が必須である。加えて、レファレンスサービス・リクエスト対応など、図書館サービスの基本を忠実に実行する。
 - ・これからの図書館は、文化教養機能に加え、課題解決支援機能が求められている。そのためのサービスの構築を図る。
 - ・市内のどの地域に住む人も図書館が利用できるよう市内全域サービスの強化を図る。
 - ・子どもからお年寄りまで、誰もが利用しやすいよう施設・設備の改善を図る。
 - ・市民が気持ちよく利用できる居心地の良い場となるよう一層のサービス向上を図る。
 - ・市民が読書に親しむ環境づくりを推進するため、各種事業を持続的に展開する。
 - ・各種事業等を通じ、市民の図書館に対する認知度を高めることにより、市民の側が図書館に能動的に係われる環境を構築する。
- 図書館と市民の関係を双方向的なものになるよう努め、市民の知識・技術・善意を図書館活動に提供してもらえるよう、地域に根ざした図書館への成長を図る。
- ・ボランティア団体との連携を深め、彼らの能力と意欲を積極的に取り込み図書館の活性化を図る。
 - ・全ての人に居場所と出番を創出し、各人が参加できる「新しい公共」の担い手として社会の活性化に寄与する。

最後に特に私が力を入れたいこと、

- ・市民の方々に、「図書館は必要な情報を探し出せる便利な施設である」ということを周知する取組、「利用教育」をしていきたい、と考えております。

次のページ、2の『重点目標と施策』。これも昨年度とほぼ同じです。

施設に関しては、全域サービス。市内の全ての地域を網羅した全域サービスをより一層強化し、サービス向上のため配本所機能の強化を図る。地域情報センターを「アーニス分館」として開館させる。

人に関しては、職員の入れ替わりがあっても常時一定水準のサービスを維持できるよう業務マニュアルの作成を推進する。

資料に関しては、資料蔵書の適正化。書架の飽和状態の解消のため資料除籍を進める。併せて除籍資料の有効活用を図る。「アーニス分館」に雑誌と大活字本を所蔵する。

サービスに関しては、レファレンスサービスの充実を図る。

イベント・展示に関しては、文化講演会やライブラリーツアーなど多種多様なイベントを実施

する。

次が、情報発信・広報。

それから「第2次登別市子ども読書活動推進計画」の取組。「あかちゃんふれあいえほん」をフォローアップする取組として読書相談「こどもの本の相談室」の利用促進に努める。「学校図書担当者・学校図書ボランティア連絡会議」、今年度は9月24日に開催されました。

最後が先ほども申し上げた、情報リテラシーサービスと利用教育の推進、です。

25年度をほぼ踏襲していますが、昨年度「市内全域サービスの強化」で配本所の本を増やすとありましたが、昨年度中に各配本所に書架を入れてこれ以上スペース的に増やせません。これは25年度でもって完了しましたので省きました。

神谷会長 事務局よりご提案をいただきました。25年度の踏襲であるということですが、一括して運営方針から施策までご意見、質問等ありませんか。

合田委員 概ね掲示された目標等はクリアされていますし、継続事項として今後も改善の余地があると思いますのでこれらは私たちが支援しながら見守っていきたいと思います。

神谷会長 ありがとうございます。その他にございませんか。

無いようですので、この方向でということでしょうか。

委員一同 （異議なしの声あり）

神谷会長 では次に2の情報提供に移ります。アーニス分館の開館後の利用状況などについて事務局お願いします。

綿貫館長 資料冊子を2つお配りしています。26年度の事業関係のもの、それと10月の教育委員会で報告されました教育委員会の『点検評価報告書』という冊子です。この中に図書館に関する項目がありますので、後ほど中山参与の方からご説明いただきます。

それでは1ページ目、『平成26年度図書館事業』であります。今年度行う図書館事業を列記したのですが既に終わっているものもございます。

8月1日にアーニス分館の開館。書架や備品の発注、雑誌の発注などを行いました。

9月26日には「登別カルチャーナイト」としてビブリオバトルを行っております。

「第10回図書館まつり」。今年は例年11月に行っている図書館まつりを8月23・24日の両日、アーニスも会場に加え実施しました。

秋には図書館システムのバージョンアップを行いました。

定例事業は、情報リテラシー支援として毎月「図書館ツアーと利用者ガイダンス」。おはなし会や工作、「こどもの本の相談室」。これは予約制ですがこういったものを行っております。毎月第2土曜日には「子ども映画会」と「名画鑑賞会」。

続きまして職員研修は今年度このようになっております。

胆振図書館協議会は、今年度は当市が幹事となっております。今月28日、この図書館で研修会

を実施します。

講座・講演会・研修会は、1月に文化講演会を予定しております。

2月には「読み聞かせ研修会」。今日ご出席の須藤委員に講師をお願いしたいと思っております。それから先週の土曜日に最終回が行われた「わらべうた講座」。

5月に富士翔太朗さんのワークショップというのを子ども読書週間の事業として行いました。

『平成26年度事業スケジュール』は、これらをカレンダーに落としたものです。

次が『第2次子ども読書活動推進計画に基づく平成26年度図書館の学校対象事業スケジュール』です。こちらは学校関係の事業を列記したものです。

この中の学校図書館との連携ですが、学校司書が配置され、5月29日と9月18日に学校司書と図書館の児童室担当との連絡会を行っております。今回は1月に行くことを予定しております。それから「小中学校の読書感想文・感想画コンクール」。市民会館で12月13日に表彰式を行います。

その他に6月21日に須藤委員のご尽力をいただきまして「全国訪問おはなし隊」の来訪がありました。

以上が『子ども読書活動推進計画に基づく図書館の学校対象事業スケジュール』です。

神谷会長 ただ今の今年度の事業とスケジュールについて、ご意見等ありませんでしょうか。

合田委員 事業計画もさることながら、人材を今の図書館から見るとかなり目いっぱい働いているという感想を持っています。そのことも合わせて議論しないと、ただ闇雲にもう少しやってほしいとか、こんな事業をと言っても過去の経過からみますと館長さん頑張って改革して頂いていますので見守りたいなと思っております。市民の協力も定着してきておりますし、市民の声のボランティアをどういう風に活用するか。活用というか活用されても困るのですが協働してやっていけるかという方向に、むしろ表立ったものはないにしても、今ある状況の中でこれらを密度の濃いものにしていくとか、デジタル化することは出来ないですけどそういった工夫は話し合いの中でしていけばいいのかなと思っています。なにせ予算が無い中で、あれもこれもと言うわけにはいかないので、働きやすい環境を整えながら今ある環境をうまくさせていく方向は、内部の図書館の職員だけでは補いきれないものがたくさんあるんですよね。そこを市民の力を借りて何かできることがあれば、それらを積極的に生かしていく。

実は「その他」のところでは言おうと思っておりましたけれど、選書の問題とか前にも言った「ななかまど」商工会議所のビジネス支援の問題と、今も話してきたのですが、「ななかまど」は市民向けのものは年に1回か2回しか出さないのですが、それらも含めて図書館のこんなことができるんだよとか、こんな本を紹介しますとか、そういうのをどこかに何行かスペースをもらいながら図書館のPRをしてほしいと言ったら、図書館から言ってくればやりますと言っていますので、ぜひそういうところ、外部とのアクセスをお金のかからない方法でしてほしいのです。そうすることで図書館だけで頑張りもう厳しいですから、外部の力をどう図書館の中に生かしていくかという方法を。例えば松原さんのところで図書館の古本市をやってくれたり書いてくれていますよね。そういうふうにあっちこっちの所とアクセスを取るようにリンクして、少しずつだけでも浸透させていく方法を考えてほしいんですよね。

神谷会長 はい、ありがとうございます。他にございませんか。

須藤委員 今年「世界食糧デー」(注:「世界食糧デー登別大会」)が、たまたま私が実行委員になったものですから、パネル展を市民の持ち込み企画として今年図書館でさせていただきました。この世界食糧デーは、数字はちょっと忘れましたが二十数回やってきて、図書館でパネル展をするのは初めてで、図書館でテーマに合わせて本を並べてくれ図書館で展示することの良さがすごくわかって、こういう風にしてもらえるんだという市民のみなさんの声、来年もぜひやりたいとおっしゃっていたので、次に繋がれると良いなと思いました。

合田委員 共同事業を市民とどう取り組んでいくかというのを、お金をかけないで知恵をかけてやるのが大切だと思います。図書館だけの力では難しい。

神谷会長 この件で他にないでしょうか。

合田委員 のぼりん(注:登別市民活動センター)に本を提供する件のOKを取っているのですが、その後、進展ありますか。

綿貫館長 進展ありません。

合田委員 やるって言っていますから話し合ってください。私、あちこちに仕掛けしていますので、せつかくすると言っているのですが、こっちは動けないよ、あなた達はその代り本を運んだりするのをやってよと言ったらOKって言っていますので、これぜひ何とか話し合いながらやってください。

綿貫館長 はい。

神谷会長 知恵を生かして、市民の取り込み、PR。ボランティア団体との協働などの展開をしていくということでよろしく願いいたします。

その他ございませんか。無いようですので、4番目以降のアーニス分館開館後の説明をお願いします。

綿貫館長 8月1日にアーニス分館が開館しましたので、その後の利用状況をご報告いたします。開館から3か月、この間の利用状況を前年同月比として出したものです。ご覧のとおり月によって変動がありますが、3か月間の貸出冊数が3,662。開館前が1,854。ほぼ倍増という形になっております。一方で同じ時期の本館は8,238、前年度は8,558ですので300冊減っております。現段階ではどういう判断をしたらいいのかこちらとしてももう少し見ていく必要があると思っています。先月の終わりに本の入れ替えと追加をしました。

雑誌に関しての利用をもう少し増やしたいと考えておりますので、何とかしたいなと考えてお

ります。

次のページは『アーニス分館開館前後の分類別蔵書の変動』です。

これは3月31日現在のアーニス分館になる前の「地域情報センター」と今月頭のアーニス分館で資料がどれくらい変わったのかということですが、総冊数で2,514から7,420冊になり、蔵書が4,906冊増えております。この中で増えているのは大活字本で0だったのが81冊、大活字本は全て分館に持っていきました。分館の方がお年寄りが来やすいということで対応したものです。雑誌は30冊が326冊と増えております。これはタイトル数ではなく冊数です。タイトルは後ほどご説明します。一方減ったものは「総記」、コンピューター関係の本です。411から206と205冊減っているのですが、古いコンピューターの本があったので除架しました。あそこは元々コンピューターの本がずらっとあったのですが、もう使われなくなった古いコンピューターの本を外しました。

続きまして、アーニス分館の目的のひとつ、雑誌の要望が多いにもかかわらず図書館（注：本館）には雑誌架はこれ以上増やせないということで雑誌を入れましたがそのリスト『所蔵雑誌一覧』です。全部で36点あります。「こどもブティック」は季刊で2014年秋をもって終了したので代わりに何を入れようか現在検討しております。ご覧いただくとわかるのですが、趣味の本を多く入れています。

次のページは『アーニス分館定期刊行物一覧』です。今まで定期刊行物は本館においていたのですが、これをアーニス分館の方で表紙が見える形で入れました。基本的には官公庁等が出しているものと北海道関係のものを入れております。

蔵書に関しては今後利用を見て入れ替えていきたいと考えております。

神谷会長 アーニス分館について、4番から7番まで説明をいただきましたけど、質問等ございませんか。

須藤委員 本のことではないのですが、アーニス分館があることで、あそこはエレベーターがあるので足の不自由な方とかいろいろな方が利用しやすいのではないかという話があって、私もその時はそうだなと思ったんです。それで実際に電動車いすを利用されている方と話をした時に、その方はレバーでしか動かさないですね。本が好きで以前は図書館に来た時も手を借りて上がっていたのですが、人の手をわずらわすのがということで、アーニス出来たよと言うと、私も気がつかないんですけど、入口どこも自動でないんです。車いすや電動だとやっぱり自分でドアを開けられない。駐車場からアーニスに入る時も結局は自動ドアではないということで、誰か人が来てくれて開ける時間を待つしかないという話を聞いた時になるほどと思って、この協議会の中でこれをどう改善しようとかでなく、たまたまそういった意見を聞いて、須藤さんなんか機会があったらどっかで言うておいてと言われたので、すみません、私はここの機会しかないので、そういった方がいましたということを一応報告という形でお話させていただきました。

神谷会長 ありがとうございます。この件について、教育委員会の皆さんも来ていますが。

中山参与 呼び出しのベルをつけるといいのでは。市民会館の入口にベルがあります。新たに自

動ドアというはちょっと難しい。

一同 気が付かなかった、の声

須藤委員 私も全然気が付かなかった。

合田委員 やはり当事者の視点でないと。

神谷会長 貴重な意見ありがとうございました。その他ございませんか。

合田委員 まだアーニス自体は馴染んでいないせいでしょうけど、利用者もまだ慣れていませんからね。お客様の声を聞くような箱を置くとか、開店したばかりで利用者の声を聞かせてくださいというような説明文をつけて置いておくニーズを吸い上げることが出来ると思います。今言ったようにこちらでは良いと思っけていてもどこかすれ違うことがあると思うのでちょっと配慮した方が良いと思います。

神谷会長 利用者の声を聞く工夫を今後検討という声がありましたがよろしいでしょうか。

綿貫館長 はい、わかりました。

神谷会長 他にはないでしょうか。

綿貫館長 アーニス分館に関して、日本図書館協会の「図書館雑誌」という雑誌から、新館紹介に掲載しますとの連絡をいただきましたのでご報告します。掲載号はわかりません。

それでは、中山参与の方からよろしくお願ひします。

中山参与 『教育委員会点検評価報告書』から図書館に関係するところを説明させていただきます。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」で教育委員会の組織の在り方などを定めてありますが、これが改正されました。改正の理由は、教育委員会の組織がよくわからないという国民の声が多かったためで、我々は事務局であって、教育委員会という別な組織があるものですから国民に浸透していないので、1年間どういう活動をしたのかという報告書を作り、学識経験者の知見を受けて議会に報告することになりました。

平成21年から作成をはじめまして5年目ということですが、内容は教育委員がどのような活動をしているのかということと、教育委員会の中でどのような話し合いが行われているということが書かれてあります。

もう一つは重点施策ということで平成25年度は20項目ありますが、これについてどんな取り組みを行って評価としてどうだったのか、今後の方向性はどうかということが書かれています。この20項目は教育長の「教育行政執行方針」に書かれているものです。その中

で10番目に学校での読書活動、19番目の図書館が市立図書館となっており、図書館と学校教育グループで記述しています。評価は両方ともAと評価しております。

学校の方は、昨年から学校司書の配置を目指しておりました。それから新聞報道にもありましたが、すべての学校に新聞を置くことができました。他の市町村はまだ入っていないところがほとんどです。登別は先駆けて入れることができました。小学校では「小学生新聞」というのを各学校の図書室に置くようになっております。

学校図書館司書の方ですが、交付税算入では2校に一人というふうになっておりました。教育委員会の方で昨年募集しましたら4月段階で何人か候補が出たのですが、最初が肝心ということで適任を見つけようということで待っておりました。そうしましたら10月に資格を持っていて意欲的な適任者が見つかりまして、鷺別小学校と青葉小学校に入れることができました。ポップを作ったり、鷺別小学校では図書室がガラッと変わって子ども達の非常に使いやすい環境になって、図書の貸し出し数も倍に伸びるといような状況が生まれました。青葉小学校でも倍まではいきませんでしたがかかなり伸びました。その後もう一人適任者が見つかりまして、幌別西小学校と若草小学校に入れ、4校でやっておりますが最終的には全ての学校に導入するのを目指して進めております。

図書に力を入れている理由ですが、12・13ページにあるグラフ、学力調査の結果を見ますと、読書が好きだという子どもの正答率が非常に高いのと、今求められている学力は単に選択で選ぶよりは文章で書いて答える。算数や数学であっても長い長文を読んでから書くというようになっていまして、おとしの中学校のB問題だったら約3600文字の長文が出ていて、ぱっと読めないと駄目なんです。こういうこともあるので学力向上にも繋がるという形で進めております。

25年度の学校図書については、お手元の資料ではまだ「鷺別小学校では図書の貸し出しは図書委員が中心に休み時間に行く」となっていますが、この後ガラッと変わりまして、専任の人がいると子ども達の集まりも非常に良いというのが見られましたので、来年度は数字も含めてご報告させていただきたいと思っております。

また、図書館の方で「子ども読書活動推進計画」の2期を作って、非常に学校との関係を館長中心に強化して頂いていまして、初めて学校図書担当者と学校図書ボランティア、市立図書館の職員が入ってお互いに意見交流するという場面もできました。また、館長の方でTRCの本も一緒に図書担当の先生にも見てもらって、その場で注文もできるというところまで進めてもらって学校にとって図書館がもっている専門的なノウハウも含めて広げていけたのではと思っております。

学識経験者の元工学院の石井先生から「学校司書の配置、読書ボランティアの充実、そして図書館運営のソフトウェアが整備されたことが読書教育全体に広がるのが喜ばしく、登別市の文化度が高まって行く事が期待されます。」という言葉をいただいております、A評価ということで

次年度もさらに学校図書の充実、図書館との連携を深め、それからアーニス分館の活性化を目指して進めていければと思っております。

神谷会長 ありがとうございます。報告書より読書活動と市立図書館のA評価について詳しく

説明をいただきました。これについてご意見はございませんか。

合田委員 来年の評価が楽しみです。このような形になって見えると現場の先生が評価されていますからやっぱり大事だと思います。こういう実績が出ないと効果が無いからと予算がつかないし、人も配置されないのがこれまでの流れだったので、これを契機に頑張っていただきたい。予算が無くなったからまた削るということがないようにお願いしたいです。

北海道は全体的に公共図書館でも何でも日本の中では非常に遅れているんですね。土地柄もありますから難しいですが公共図書館の未設置自治体は北海道は高いのです。そういうこと考えていくとやっぱり公共図書館を建てると言ったら財政とか色々なことがあって難しいけれど、学校図書館にまずは先行的に人も金も配置するというのが、ひいては長い目で見えていくと図書館全体のレベルアップに学力アップにも全て繋がっていくし、登別の学力は相当高くないので、低いとは言いませんよ、そういう意味でいうと私はどこから手を付けるのだとずっと気になっていましたので、これは必須事項だと思いますので継続して力を入れていただきたいと思います。

神谷会長 私も毎日のように司書が来る度に、その日の図書室の動きを文書で報告してくださるので、職員室にいながらにして子ども達のその日の読書活動が良くわかります。

神谷会長 その他にございませんか。

柴山委員 学校司書の方の身分はどうなっているのですか。保障されているのですか。

大野部長 嘱託職員です。ある程度新しい方は臨時で少し様子を見ていただいとという感じです。

柴山委員 せっかく有能な方でしたら定着できるような保障というようなのを出来るといいのではと思います。

中山参与 勤務時間のことなどもありまして、今の感じが良いという事情がありました。

合田委員 まずは人、配置。後は徐々に改善していくしかないですね。

神谷会長 それでは、その他も含めて事務局何かありませんか。

綿貫館長 次回の協議会は3月頃に予定しておりまして、来年度の予算と図書館要覧、図書館内部による前年度の事業評価をお出ししたいと思っています。

神谷会長 皆さんからその他で何かございませんか。

須藤委員 協議会とは直接的なものではありませんが、2016年度に「北海道子どもの本のつどい登別大会」を開こうと思っています。

これは結構大がかりな大会でして、全道から子どもの本にかかわる読み手、作り手、色々な方が係わって繋がっている「子どもの本のつどい」という組織があるのですが、ここが後援になっていただきながら大会を登別で開きたいと思っています。いろいろご協力いただくことがあると思いますが、そのさいは是非よろしくお願いします。

合田委員 行政はもちろん協議員の皆さんの力も借りないと、登別のような小さなまちで全道大会を開くのですから。

須藤委員 ざっくりと内容をいいますと、2日日程で、一日目が基調講演で著名な作家さんなりをお呼びして講演をしていただきます。二日目が分科会というかたちで、その市町村によりますが、3つから4つの分科会を開きます。

神谷会長 北海道子どもの本のつどい、ですね。

須藤委員 登別が第39回になります。絵本だけに限りません、子どもの本です。読み手だけでなく、北海道在住の書き手の方も参加します。

合田委員 こういうのは全国にないそうです。子どもの本に特化して、全道をまわるようなのは。

登別も今まで手を挙げたかったのですが、なかなか揃ってなくて挙げられなかったのですが、ようやく今回開くことができます。子ども読書活動推進計画（注：第2次登別市子ども読書活動推進計画）もできましたので、あれを実体化させていかないと、計画だけの絵に描いた餅にしたいくないので、それを根付かせたいきっかけとして手を挙げました。

神谷会長 はい、ありがとうございます。それでは、本日はお忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。